

- 5 昼 澆するに常に前に在り
- 6 夜 宿するに亦處を同じくす
- 7 暗きに臨んでは燈燭有り
- 8 寒さに當りては綿絮有り
- 9 往年窮子を見るに
- 10 京中迷ひて據を失ふ
- 11 裸身にて博奕せる者ばくえき
- 12 道路 南助と呼ぶ
南大納言の子 内蔵助、博徒なり。今猶 南助と号す
- 13 徒跣して彈琴の者とびん
- 14 閭巷 弁御と称すりやう
俗に貴女を謂ひて御と為す。蓋し夫人・女御の義なり。藤相公、弁官を兼ね。故に其の女を称せり
- 15 其の父は共に公卿にして
- 16 当時、幾たびか驕倨せるきやうこ
- 17 昔は金をも泥土の如くし
- 18 今は飯にも饜飮する無しえんご
- 19 汝を彼に思量するに
- 20 天感 甚だ寛恕たりかんじよ